

貯蓄額(投資額)が最も多い金融機関

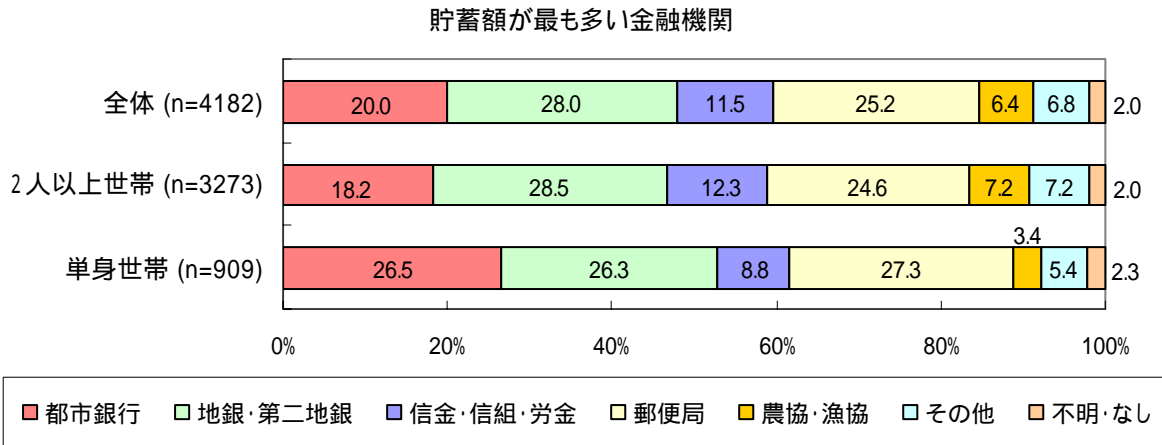
1. 貯蓄額が最も多い金融機関 (問4)

問4 お宅で利用している金融機関のうち、貯蓄額(投資額)が最も多い金融機関はどれですか。(は1つ)
 なお、例えば、複数の都市銀行を利用している場合は、別々の金融機関としてお考えください。
 有価証券(株式等)については、現在評価額でお考えください。また、生命保険などについては、これまでの積立額(掛け捨て分を除く)でお考えください。

<世帯別>

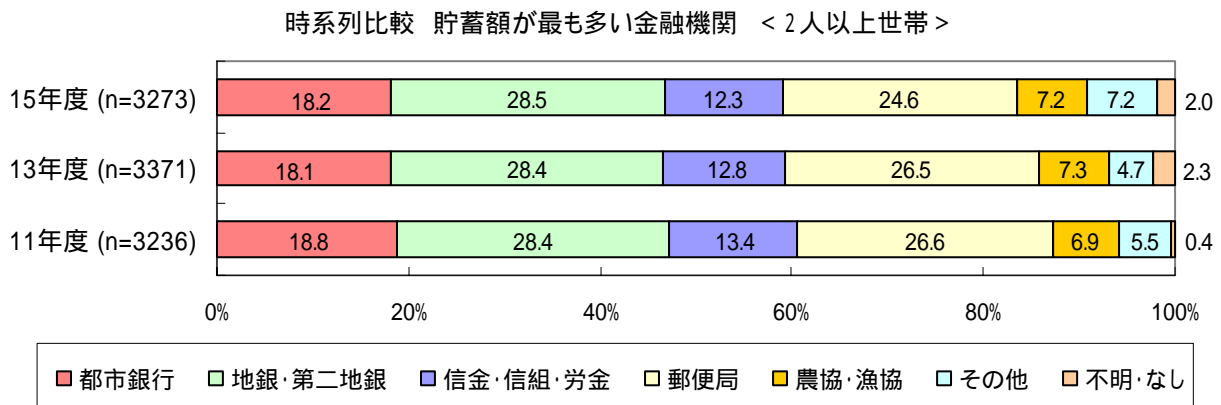
貯蓄額が最も多い金融機関としては、2人以上世帯では、「地銀・第二地銀」(28.5%)、「郵便局」(24.6%)、「都市銀行」(18.2%)、「信金・信組・労金」(12.3%)、「農協・漁協」(7.2%)の順となっている。

一方、単身世帯では、「郵便局」(27.3%)、「都市銀行」(26.5%)、「地銀・第二地銀」(26.3%)が他を引き離してほぼ同率で並び、かなり離れて「信金・信組・労金」(8.8%)、「農協・漁協」(3.4%)が続いており、2人以上世帯と比較して、「都市銀行」「郵便局」の割合が高い。



<時系列比較> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、13年度調査、11年度調査と比較すると、「郵便局」及び「信金・信組・労金」の割合が若干減少している。

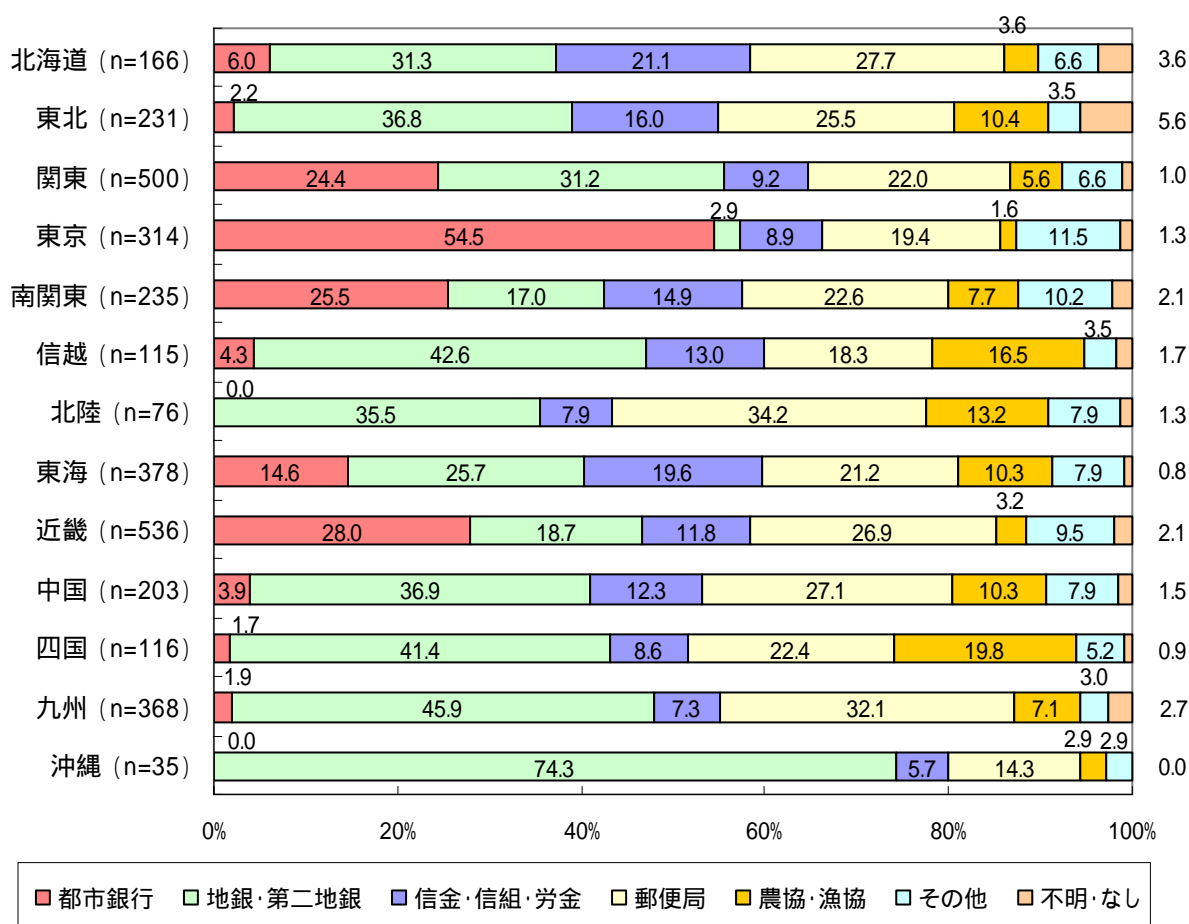


<地域ブロック別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、地域ブロック別にみると、「東京」では「都市銀行」(54.5%)の割合が、「沖縄」では、「地銀・第二地銀」(74.3%)の割合が圧倒的に高い。

また、「信金・信組・労金」については「北海道」(21.1%)及び「東海」(19.6%)で、「郵便局」については「北陸」(34.2%)及び「九州」(32.1%)で、「農協・漁協」については「四国」(19.8%)及び「信越」(16.5%)で相対的に割合が高くなっている。

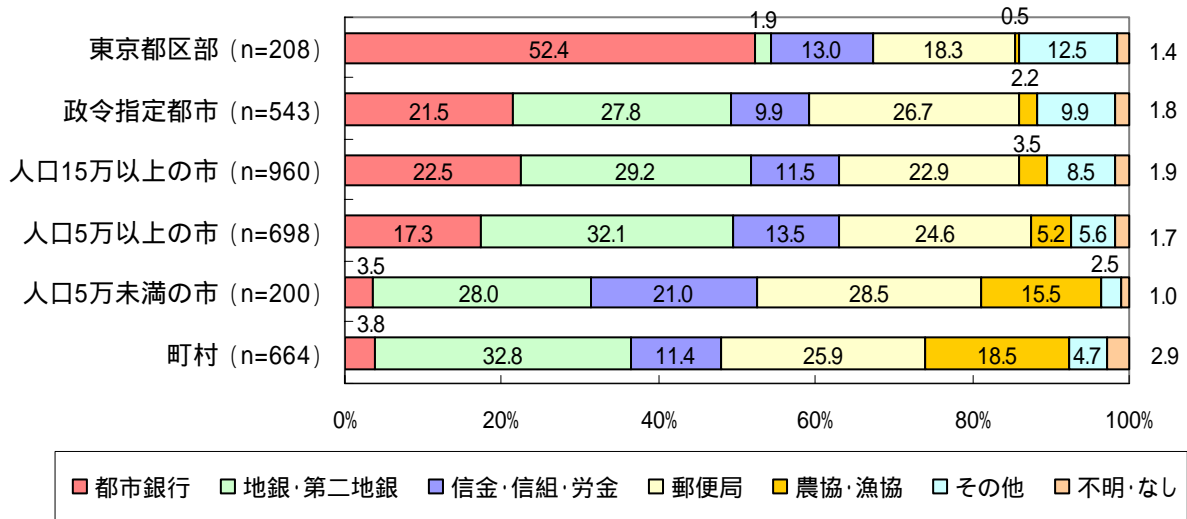
地域ブロック別 貯蓄額が最も多い金融機関 < 2人以上世帯 >



< 都市規模別 > (2人以上世帯)

2人以上世帯について、都市規模別にみると、「東京都区部」では、「都市銀行」(52.4%)の割合が圧倒的に高く、「郵便局」(18.3%)が続いている。一方、「人口5万未満の市」及び「町村」においては、「農協・漁協」の割合が相対的に高くなっている。

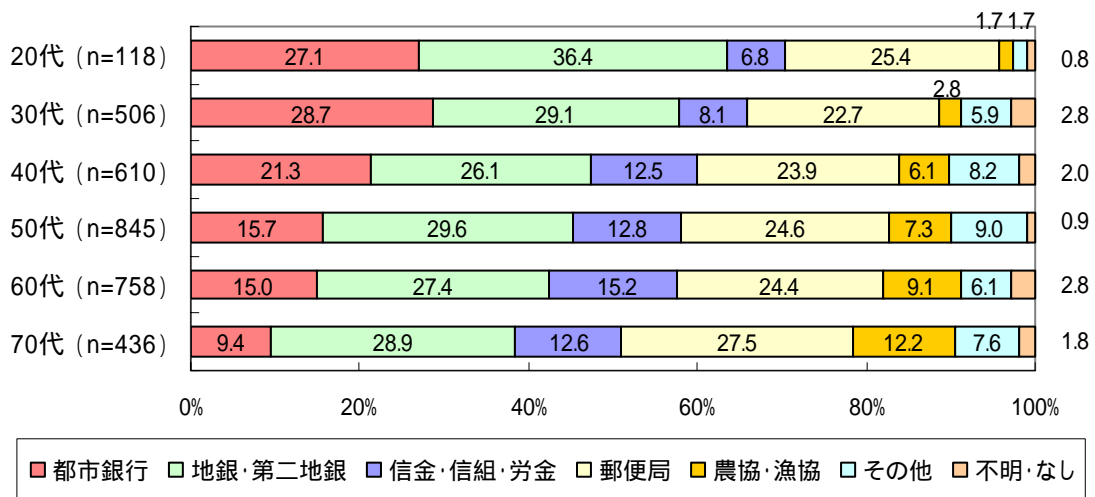
都市規模別 貯蓄額が最も多い金融機関 < 2人以上世帯 >



< 世帯主年齢別 > (2人以上世帯)

2人以上世帯について、世帯主の年齢別にみると、年代が若いほど「都市銀行」の割合が高く、「農協・漁協」の割合が低くなる傾向がみられる。

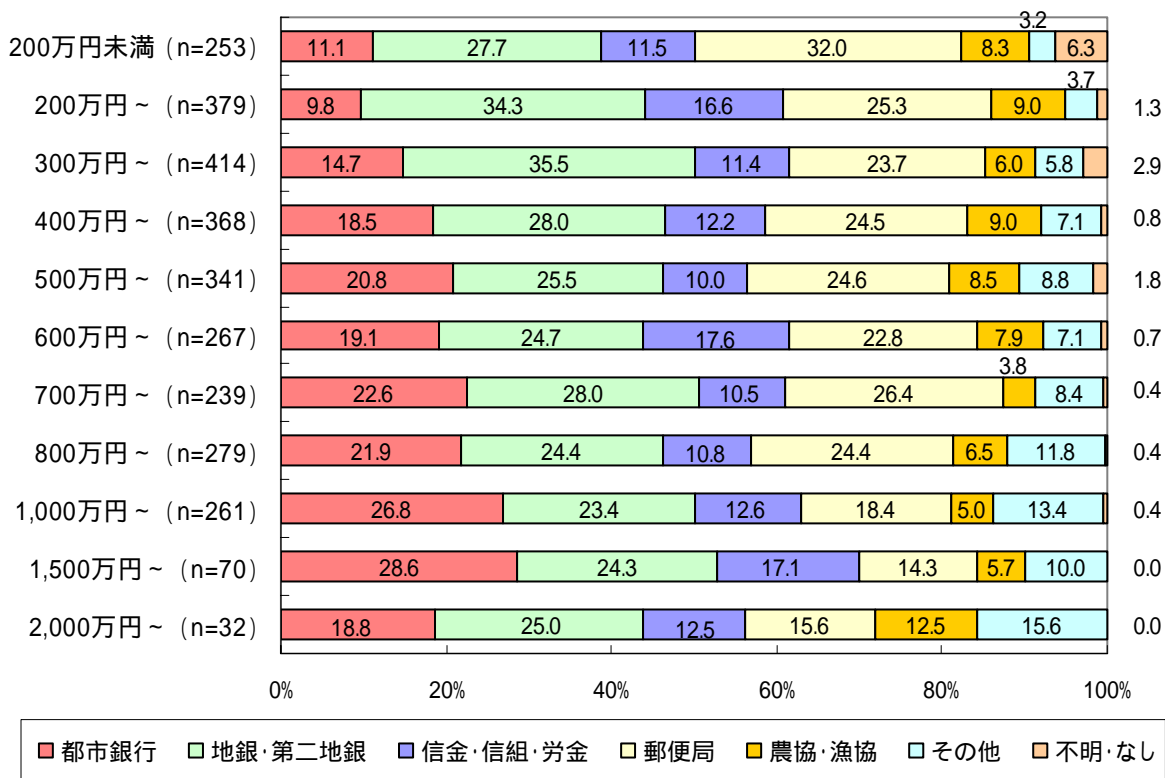
世帯主年齢別 貯蓄額が最も多い金融機関 < 2人以上世帯 >



<世帯年収別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、世帯年収別にみると、「200万円未満」の世帯では、「郵便局」(32.0%)の割合が最も高くなっている。

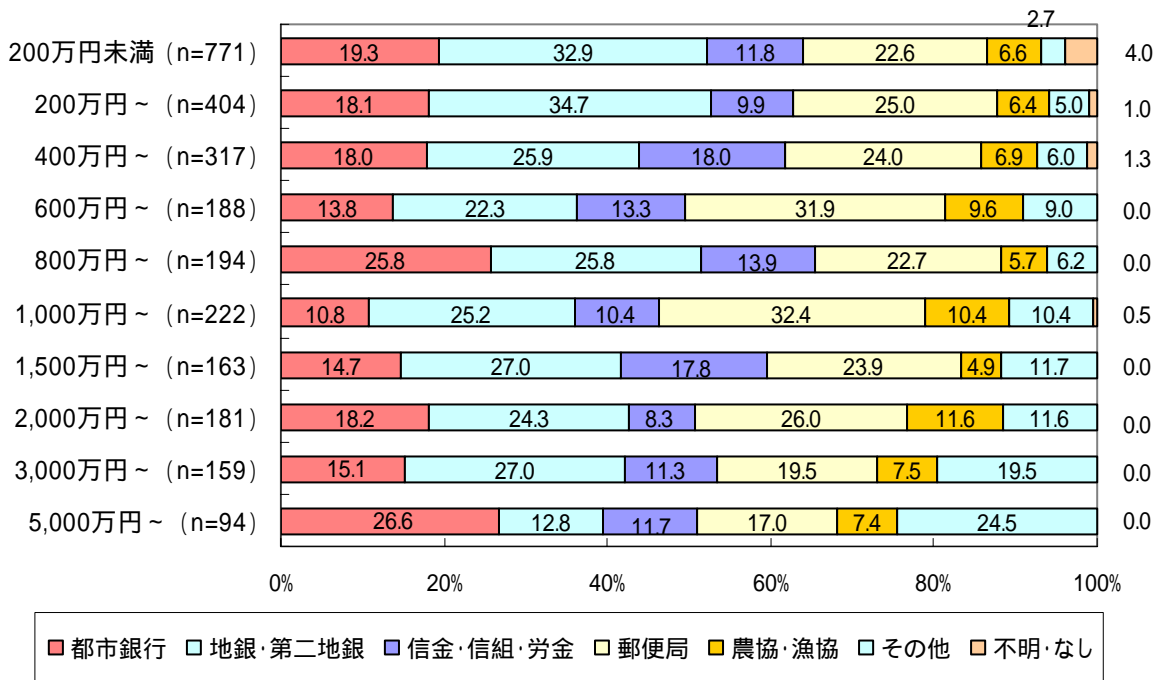
世帯年収別 貯蓄額が最も多い金融機関 < 2人以上世帯 >



<貯蓄総額別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、貯蓄総額別にみると、貯蓄総額が多い世帯ほど「地銀・第二地銀」「郵便局」「都市銀行」「信金・信組・労金」「農協・漁協」以外の金融機関を選択した割合が高くなっており、証券や信託商品などに資産運用手段が多様化しているためと推測される(「 . 1. 現在金融機関で行っている取引(2)有価証券など<貯蓄総額別>」参照)。

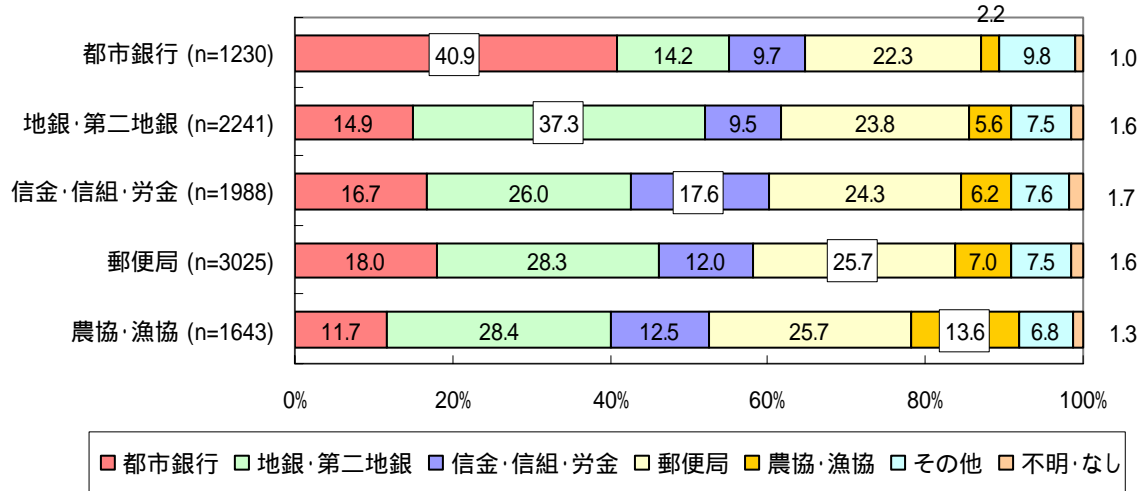
貯蓄総額別 貯蓄額が最も多い金融機関 <2人以上世帯>



<自宅の近くにある金融機関別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、自宅の近くにある金融機関(問1)別にみると、自宅近くにあつてなおかつ貯蓄額が最も多い金融機関は、「都市銀行」(40.9%)、「地銀・第二地銀」(37.3%)、「信金・信組・労金」(17.6%)、「郵便局」(25.7%)、「農協・漁協」(13.6%)となっている。

自宅の近くにある金融機関別 貯蓄額が最も多い金融機関 <2人以上世帯>



2. 貯蓄額が最も多い金融機関の貯蓄額が金融資産全体に占める割合（問4付問1）

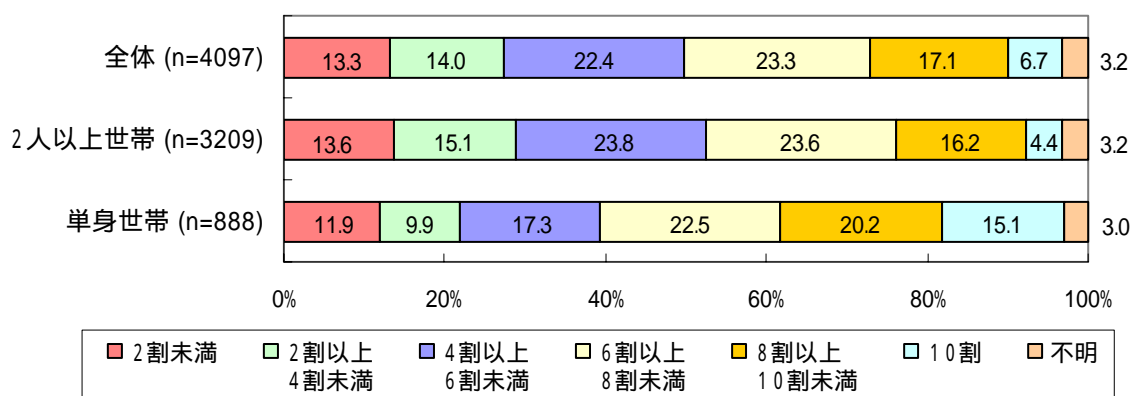
付問1 その金融機関における貯蓄額（投資額）は、お持ちになっている金融資産全体のうち何割ほどになりますか。（1は1つ）

<世帯別>

貯蓄額が最も多い金融機関がある世帯（n=4,097）について、その金融機関の貯蓄額が金融資産全体に占める割合は、2人以上世帯では、「4割以上6割未満」（23.8%）及び「6割以上8割未満」（23.6%）で、ほぼ半数を占める。次いで「8割以上10割未満」（16.2%）が続いている。

一方、単身世帯では、「6割以上8割未満」（22.5%）が最も多いが、「8割以上10割未満」（20.2%）、「10割」（15.1%）も多く、2人以上世帯と比較して、貯蓄額が最も多い金融機関に金融資産が集中している。

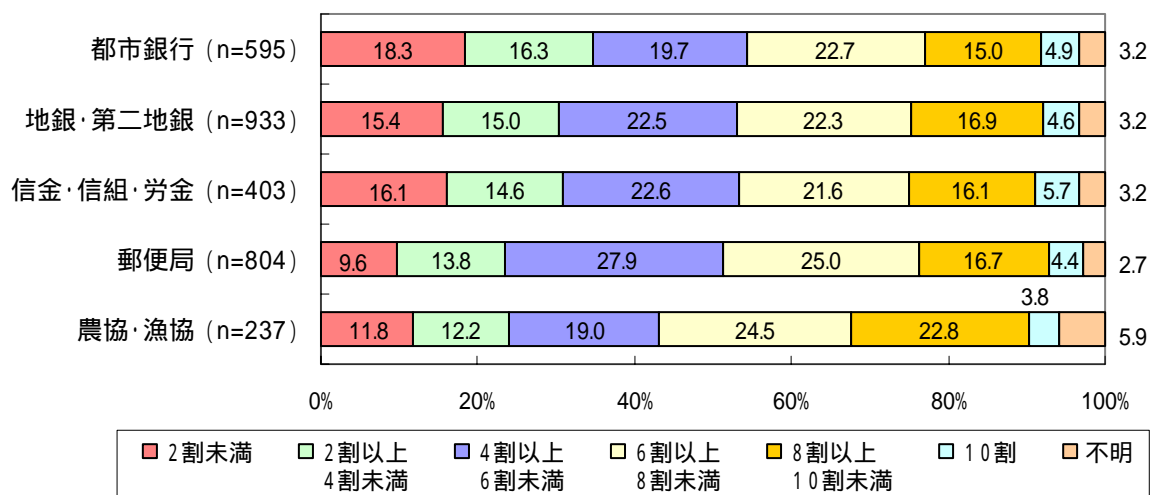
金融資産全体に占める貯蓄額の割合



<貯蓄額が最も多い金融機関別>（2人以上世帯）

2人以上世帯について貯蓄額が最も多い金融機関別にみると、「農協・漁協」と答えた世帯では、貯蓄額の最も多い金融機関の貯蓄額が金融資産全体に占める割合が「8割以上10割未満」と答えた割合（22.8%）が、それ以外の世帯と比べて高くなっている。

貯蓄額が最も多い金融機関別 金融資産全体に占める貯蓄額の割合
<2人以上世帯>



3. 貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由（問4付問2 複数回答）

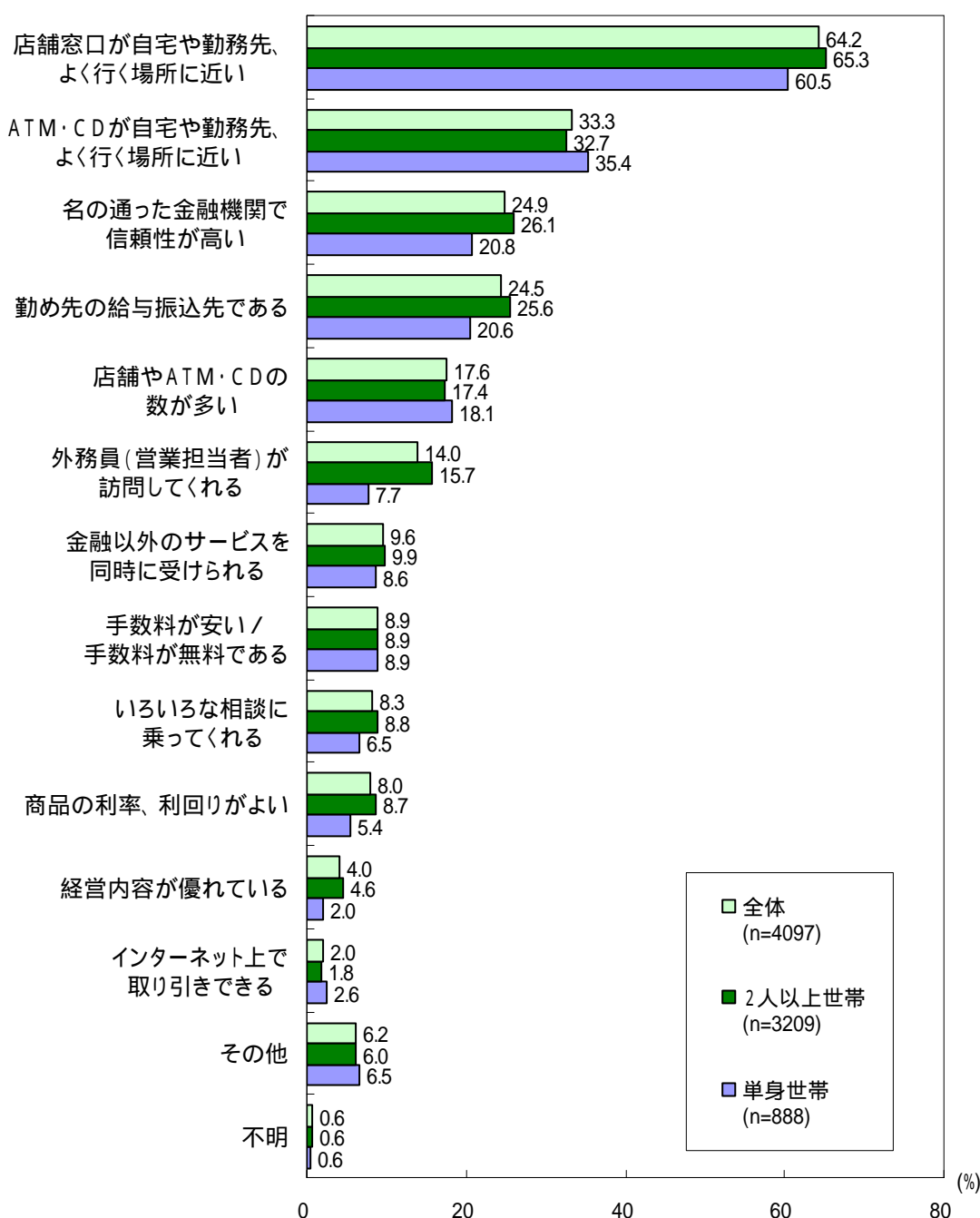
付問2 その金融機関を選んだ理由について、あてはまるものをすべて選んでください。（はい/いつでも）

<世帯別>

貯蓄額が最も多い金融機関がある世帯（n=4,097）について、その金融機関を選んだ理由としては、「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」（2人以上世帯 65.3%、単身世帯 60.5%）が際立って高く、以下、かなり離れて「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」（2人以上世帯 32.7%、単身世帯 35.4%）、「名の通った金融機関で信頼性が高い」（2人以上世帯 26.1%、単身世帯 20.8%）の順となっている。

単身世帯では、2人以上世帯と比較して、「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」の割合が高く、「外務員（営業担当者）が訪問してくれる」の割合が低くなっている。

貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由（複数回答）

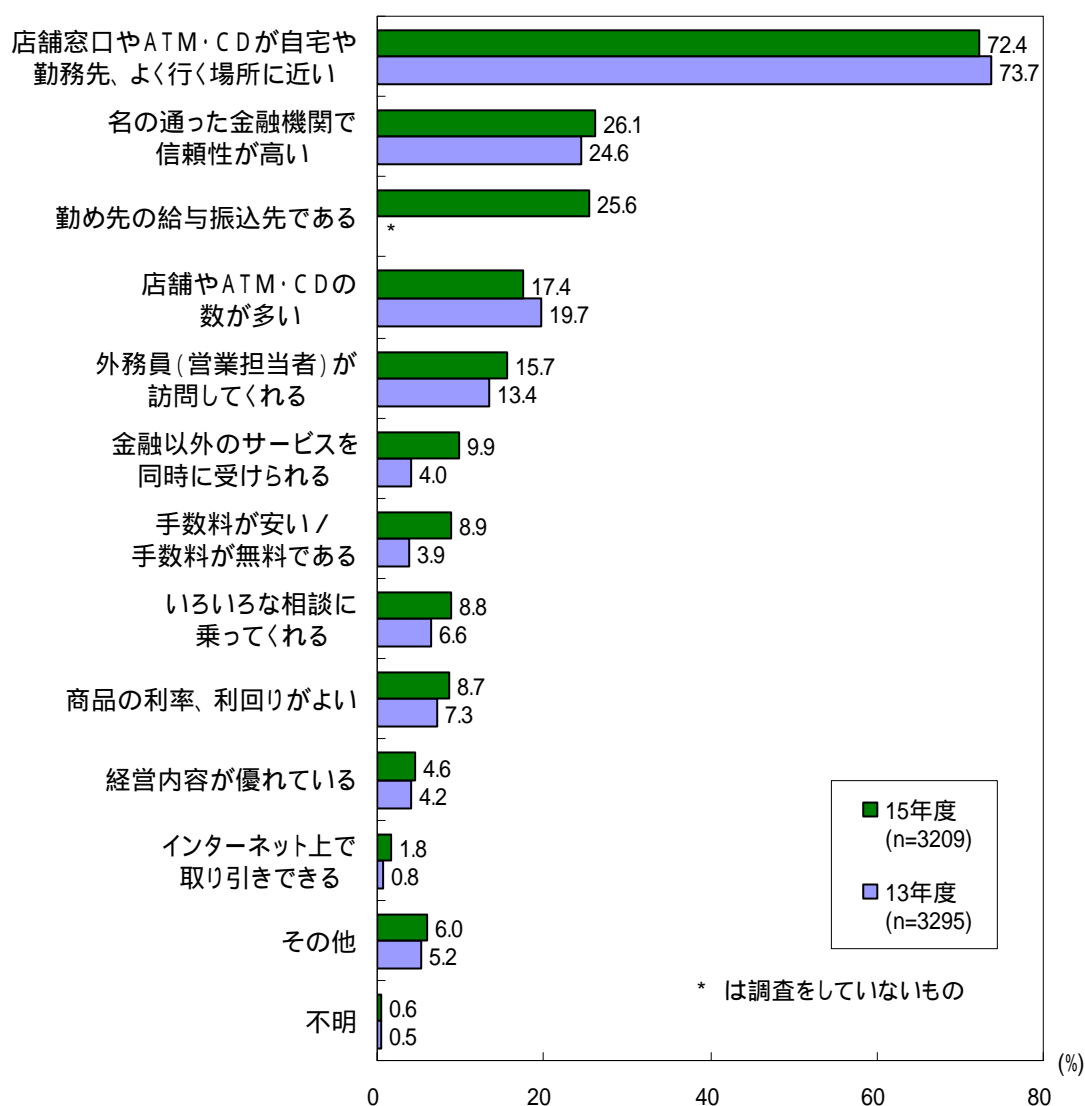


<時系列比較> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、13年度調査と比較すると、「店舗窓口やATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」が他の理由を引き離して最も高くなっていることに変わりはない。なお、13年度調査については、調査票がマトリックス形式であったため全体として回答率が低くなっていると思われる点に留意が必要である。

15年度調査については、「店舗窓口やATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」は、「店舗窓口が近い」及び「ATM・CDが近い」の小計を用いている。

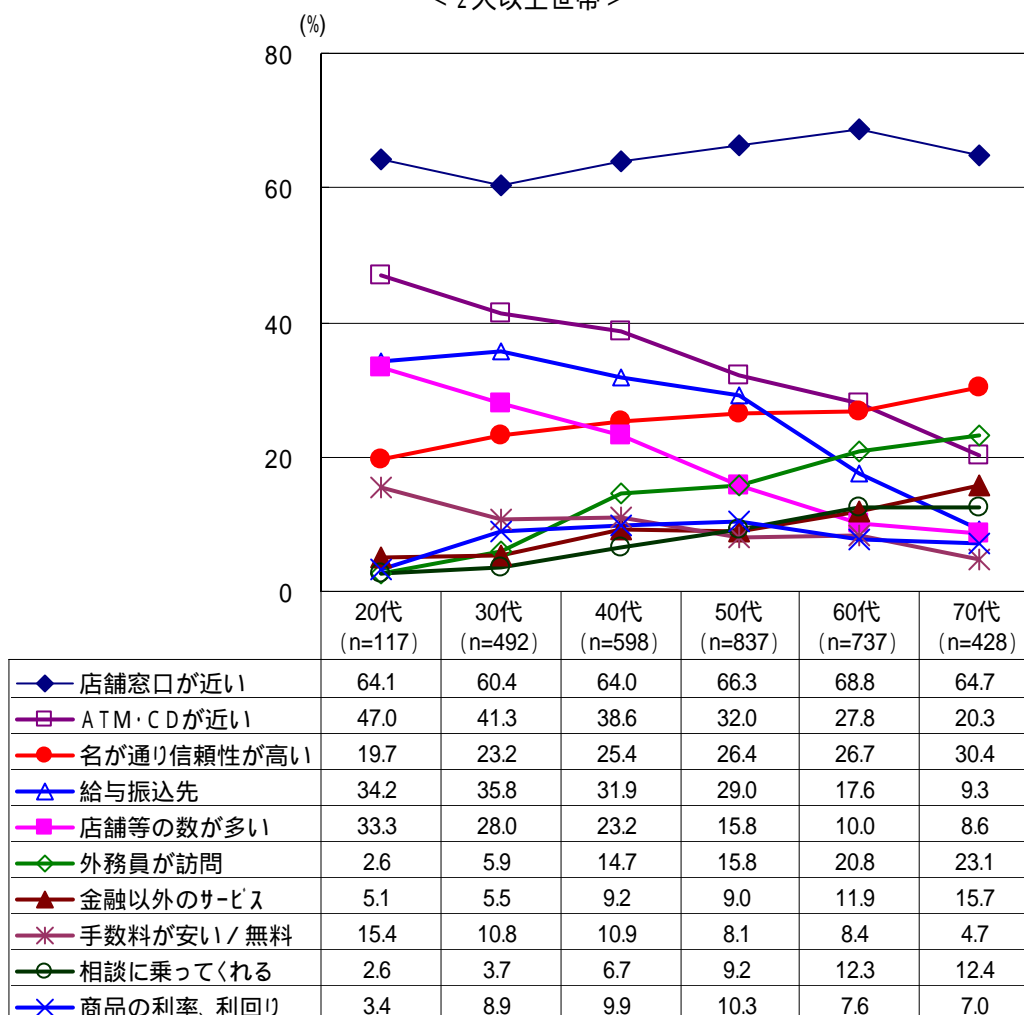
時系列比較 貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由（複数回答）
<2人以上世帯>



<世帯主年齢別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、回答率の高かった上位10の理由について、世帯主の年齢別にみると、「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」「店舗やATM・CDの数が多い」は若年層ほど回答率が高く、「名の通った金融機関で信頼性が高い」「外務員が訪問してくれる」「いろいろな相談に乗ってくれる」は高齢であるほど回答率が高くなっている。

世帯主年齢別 貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由（複数回答）
< 2人以上世帯 >



<貯蓄額が最も多い金融機関別> (2人以上世帯)

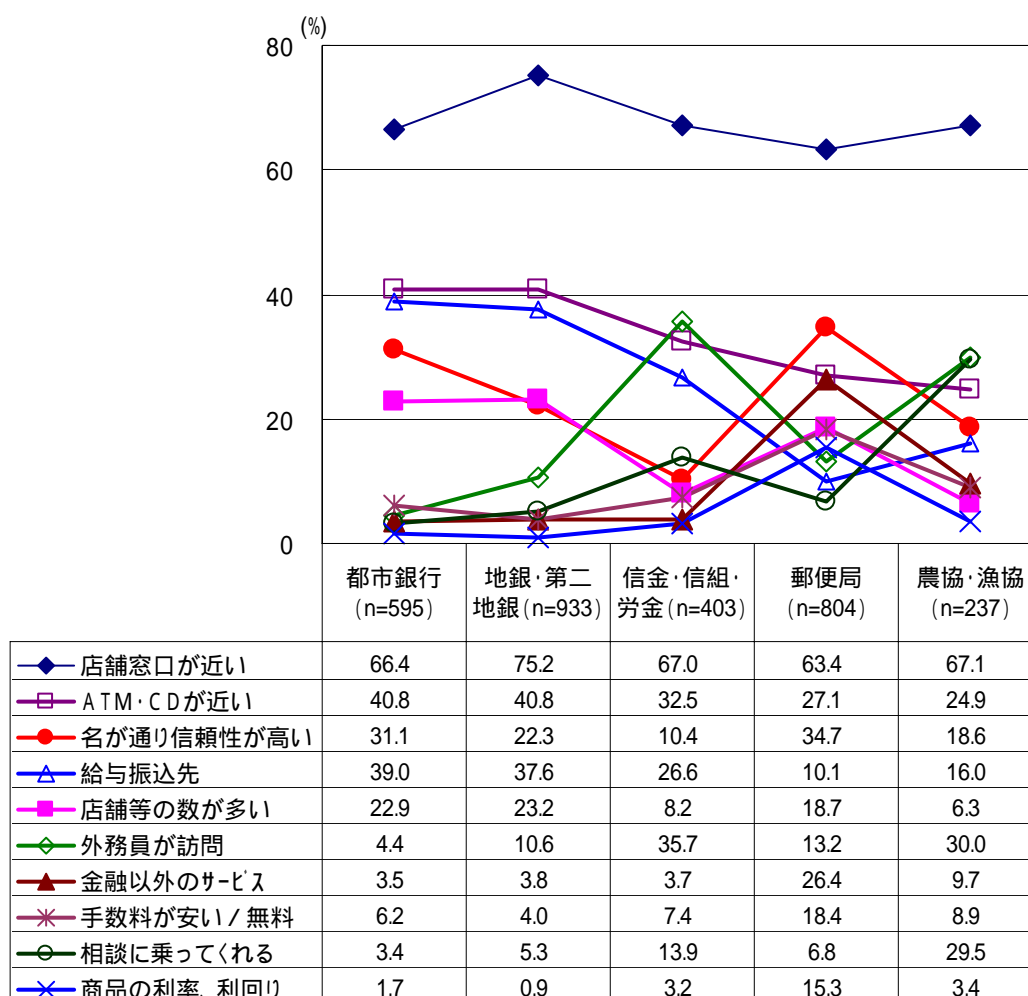
2人以上世帯について、貯蓄額が最も多い金融機関別にその金融機関を選んだ理由をみると、いずれも「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」の割合が際立って高い。

その他の理由については、「都市銀行」及び「地銀行・第二地銀」では、「勤め先の給与振込先である」の割合が高い。

「信金・信組・労金」及び「農協・漁協」では、「外務員が訪問してくれる」、「いろいろな相談に乗ってくれる」の割合が高く、「信頼性が高い」の割合が低くなっている。

「郵便局」では、「信頼性が高い」、「金融以外のサービスを同時に受けられる」、「手数料が安い」、「利率がよい」の割合が高い。

貯蓄額が最も多い金融機関別
貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由（複数回答） < 2人以上世帯 >



4. 最も重視している理由(貯蓄額) (問4付問2 - 1)

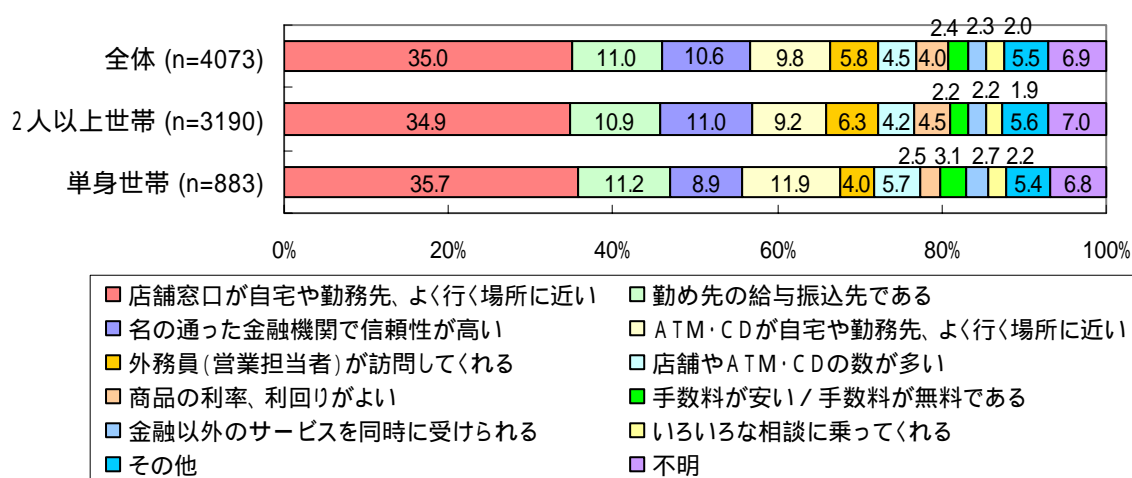
付問2 - 1 また、そのうち最も重視している理由について、に番号を記入してください。

< 世帯別 >

「貯蓄額が最も多い金融機関を選ぶ理由」に回答した世帯のうち(n=4,073)、最も重視しているものとしては、「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」(2人以上世帯 34.9%、単身世帯 35.7%)の割合が最も高い。

以下、2人以上世帯では、「名の通った金融機関で信頼性が高い」(11.0%)、「勤め先の給与振込先である(10.9%)」の順となっているが、単身世帯では、「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」(11.9%)、「勤め先の給与振込先である」(11.2%)の順となっており、2人以上世帯では信頼性を、単身世帯では利便性をより重視している。

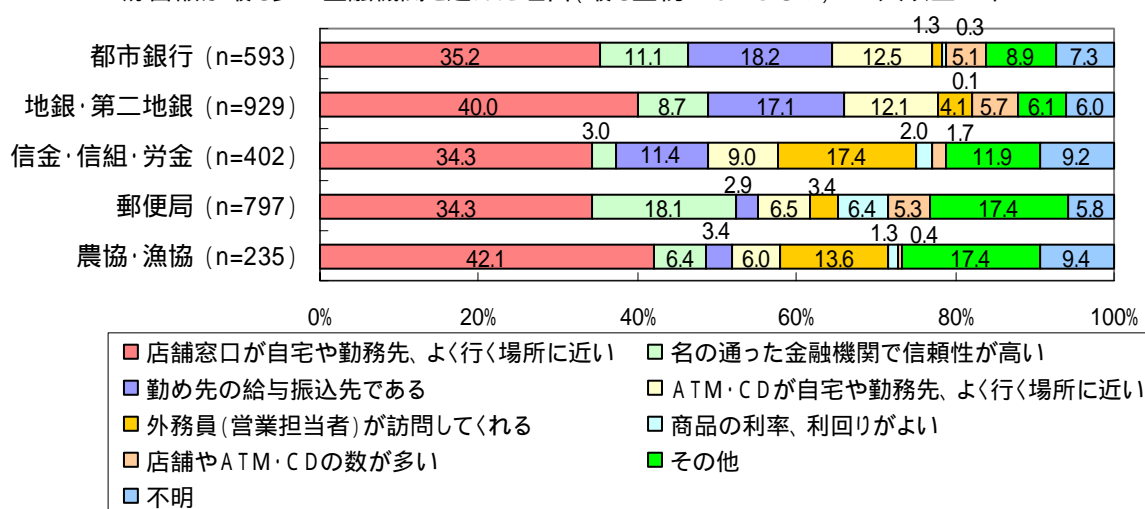
貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由(最も重視しているもの)



< 貯蓄額が最も多い金融機関別 > (2人以上世帯)

2人以上世帯について、貯蓄額が最も多い金融機関別にみると、「都市銀行」及び「地銀・第二地銀」に貯蓄額が最も多い世帯では、「勤め先の給与振込先である」を選択理由として最も重視している割合が高い。「信金・信組・労金」及び「農協・漁協」では「外務員が訪問してくれる」の割合が非常に高い。「郵便局」では「名の通った金融機関で信頼性が高い」、「商品の利率、利回りがよい」の割合が高くなっている。

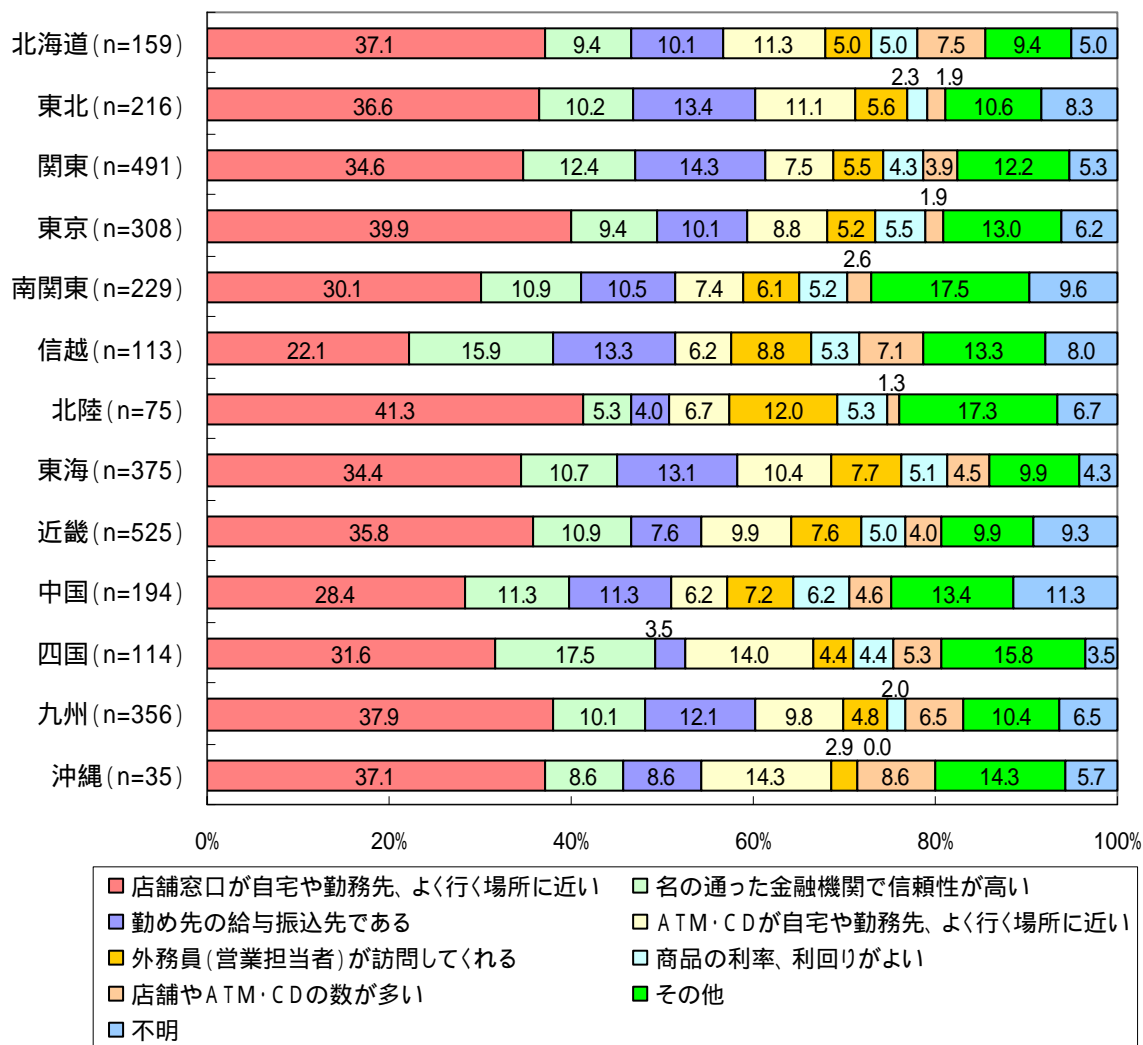
貯蓄額が最も多い金融機関別
貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由(最も重視しているもの) < 2人以上世帯 >



<地域ブロック別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、地域ブロック別にみると、「信越」では「名の通った金融機関で信頼性が高い」、「北陸」では「外務員が訪問してくれる」、「四国」では「名の通った金融機関で信頼性が高い」「ATM・CDが近い」、「沖縄」では「ATM・CDが近い」の割合が相対的に高い。

地域ブロック別 貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由(最も重視しているもの)
< 2人以上世帯 >

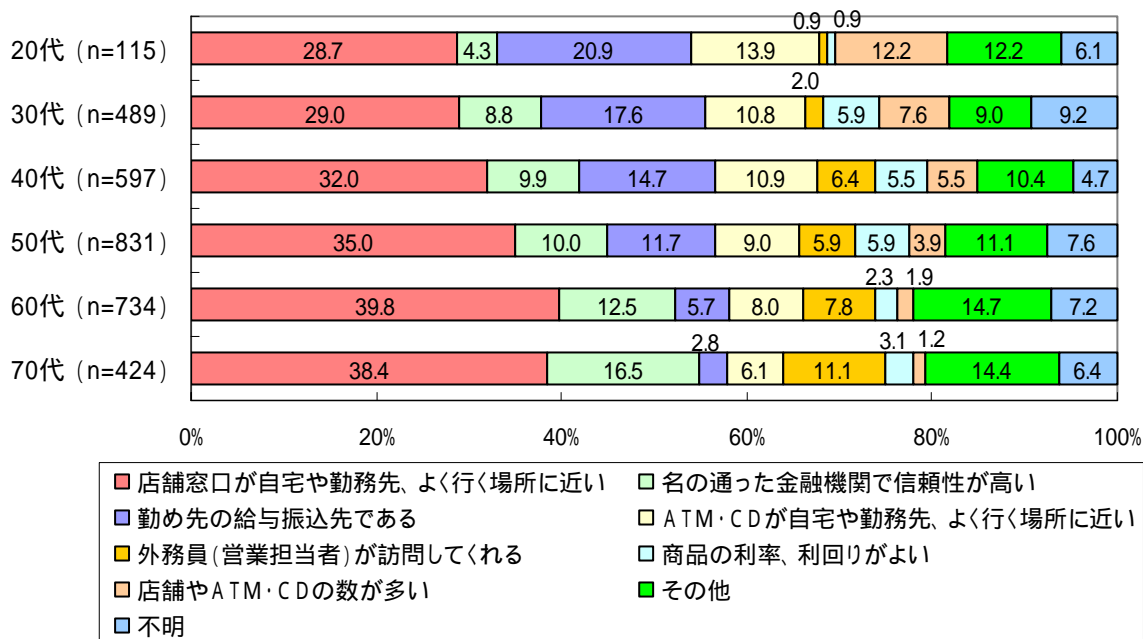


<世帯主年齢別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、世帯主の年齢別にみると、若い世代ほど「勤め先の給与振込先である」「ATM・CDが自宅や勤務先、よく行く場所に近い」「店舗やATM・CDの数が多い」の割合が高い傾向にある。

一方、高齢の世代ほど「店舗窓口が自宅や勤務先、よく行く場所に近い」「名の通った金融機関で信頼性が高い」「外務員が訪問してくれる」の割合が高い傾向にある。

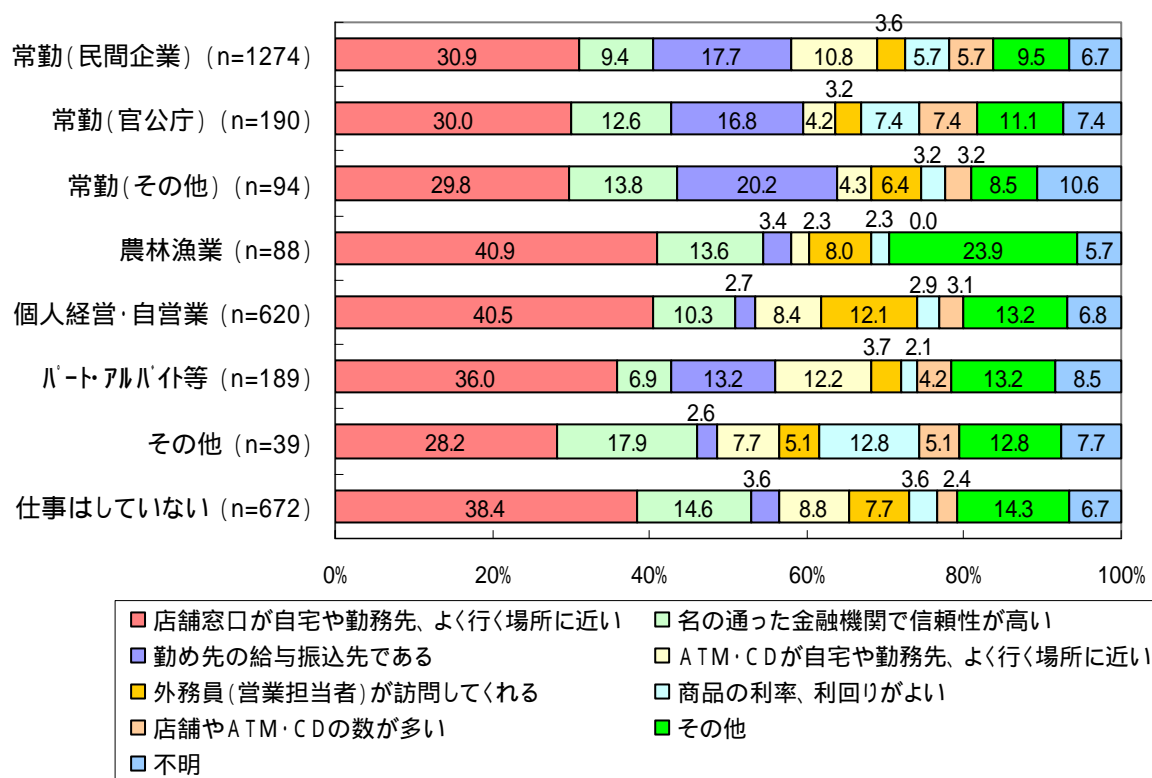
世帯主年齢別 貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由(最も重視しているもの)
<2人以上世帯>



<世帯主職業別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、世帯主の職業別にみると、「常勤」の世帯では、「勤め先の給与振込先である」の割合が高い。また、「個人経営・自営業」の世帯では、「外務員が訪問してくれる」(12.1%)の割合が他と比較して高くなっている。

世帯主職業別 貯蓄額が最も多い金融機関を選んだ理由(最も重視しているもの)
< 2人以上世帯 >



5. 貯蓄額が最も多い金融機関で行っている取引（問4付問3 複数回答）

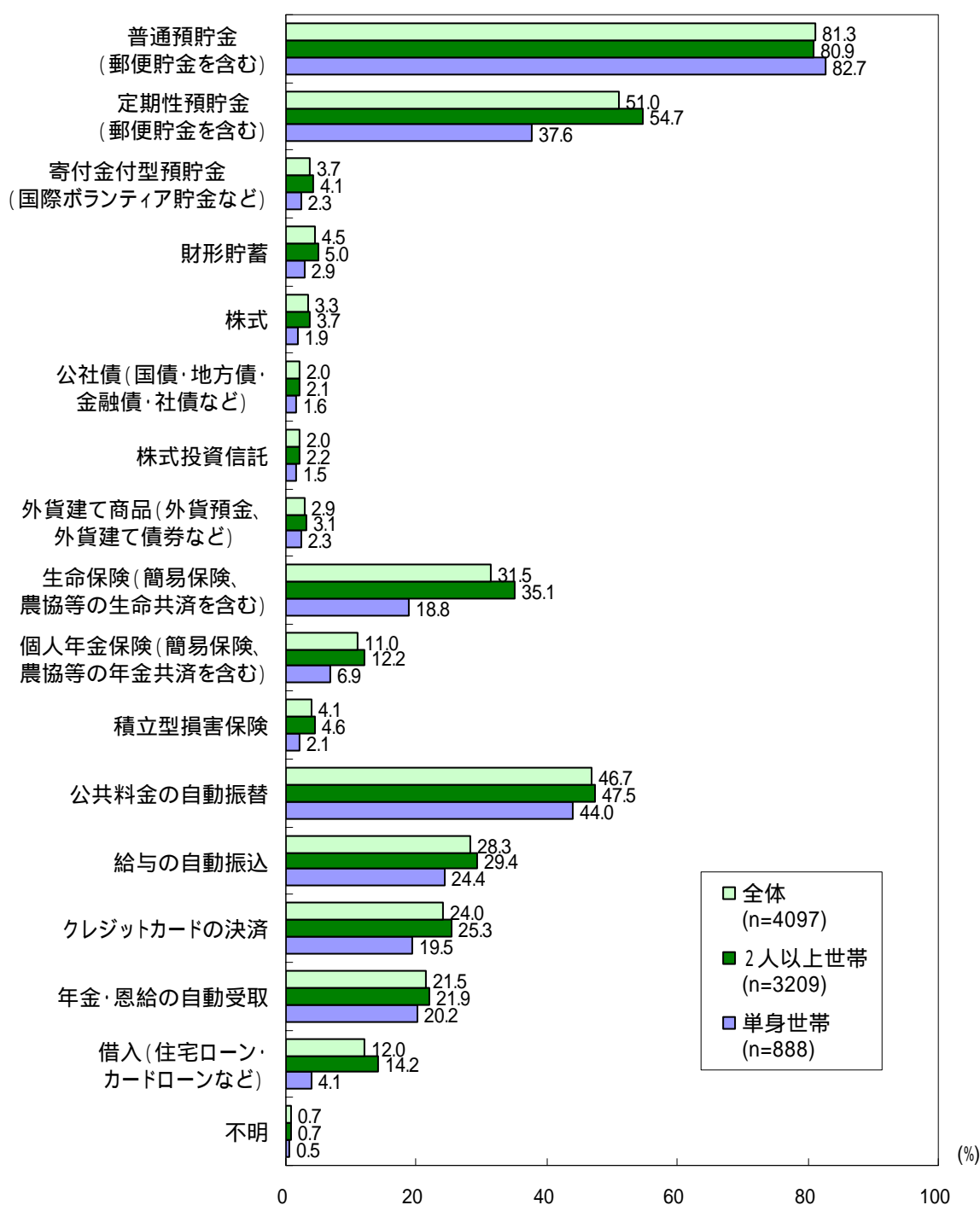
付問3 問4で選んだ「貯蓄額(投資額)が最も多い」金融機関で行っている取引をすべて選んでください。
(はいいくつでも)

<世帯別>

貯蓄額が最も多い金融機関がある世帯(n=4,097)について、その金融機関で行っている取引としては、「普通預貯金(郵便貯金を含む)」(2人以上世帯 80.9%、単身世帯 82.7%)の割合が最も高く、以下、かなり離れて「定期性預貯金(郵便貯金を含む)」、「公共料金の自動振替」、「生命保険」、「給与の自動振込」の順となっている。このうち、「定期性預貯金(郵便貯金を含む)」、「生命保険」については、単身世帯は2人以上世帯に比べてかなり低い割合となっている。

なお、回答率が2%未満のものについては、グラフには掲載していない。

貯蓄額が最も多い金融機関で行っている取引(複数回答)



<貯蓄額が最も多い金融機関別> (2人以上世帯)

2人以上世帯について、「貯蓄額が最も多い金融機関」別に「現在行っている取引」をみると、「都市銀行」「地銀・第二地銀」に貯蓄額が最も多い世帯では、「普通預貯金」「給与の自動振込」の利用率が高い。

「郵便局」に貯蓄額が最も多い世帯では、「定期性預貯金」(69.7%)の利用率が高く、「公共料金の自動振替」(31.6%)、「クレジットカードの決済」(12.4%)、「給与の自動振込」(13.4%)などは低くなっている。

「農協・漁協」に貯蓄額が最も多い世帯では、「生命保険」「個人年金保険」「年金・恩給の自動受取」の利用率が高い。

貯蓄額が最も多い金融機関別
貯蓄額が最も多い金融機関で行っている取引(複数回答)<2人以上世帯>

